

評 価 書

岡部株式会社
代表取締役 社長執行役員 廣渡 眞 様

令和 2 年 8 月 31 日付で申請を承諾した下記の構造方法について、評価報告書に基づき構造耐力上支障ないものと判断し、評価する。

令和 3 年 1 月 18 日

ハウスプラス確認検査株式会社
代表取締役社長 吉田 正司



記

1. 構造方法
「ピタットベースを用いた柱脚部接合工法」

2. 評価事項

- (1) 鉛直構面の許容せん断耐力と許容曲げモーメントの算定のための低減係数 α
 - (2) 応力解析をする際に用いる鉛直構面の曲げ剛性 (cK) ・ 柱脚部の曲げ剛性 (初期剛性 (cK_{B0}) ・ 二次剛性 (cK_{B2})) ・ 剛性変化荷重 (M_x)
 - (3) 壁柱の剛性 (cK_w) ・ 鉛直構面の短期許容せん断耐力と短期許容曲げモーメント
- ここで、「ピタットベースを用いた柱脚部接合工法」を構成する部品及び部材等の品質管理は、本評価の範囲外とする。

3. 評価結果

- (1) 鉛直構面の許容せん断耐力と許容曲げモーメントの算定のための低減係数 α は、別記「6.2 低減係数」の通り評価した。
- (2) 鉛直構面の曲げ剛性 (cK) は<1.1>式、柱脚部の曲げ剛性 (初期剛性 (cK_{B0})) は<1.2>式、柱脚部の曲げ剛性 (二次剛性 (cK_{B2})) は<1.3>式、剛性変化荷重 (M_x) は<1.4>式の通り評価した。

$$cK = \beta_1 \frac{cK_B \cdot cK_W}{cK_B + cK_W} \quad \langle 1.1 \rangle$$

$$cK_{B0} = \beta_2 \frac{k_c \cdot k_t}{k_c + k_t} \cdot e j^2 \quad \langle 1.2 \rangle$$

$$cK_{B2} = \frac{cK_{B0}}{0.029L - 2.9} \quad \langle 1.3 \rangle$$

$$M_x = (0.0961L - 10.6) \times 10^6 \quad \langle 1.4 \rangle$$

- (3) 壁柱の剛性 (cK_w) は<1.5>式、鉛直構面の短期許容せん断耐力は<1.6>式、短期許容曲げモーメントは<1.7>式の通り評価した。

$$cK_w = \frac{M}{\theta_w} = \frac{P \cdot h}{P \cdot h^2 / 3EI} = \frac{3EI}{h} \quad \langle 1.5 \rangle$$

$$P_a = \frac{M_a}{h} \quad \langle 1.6 \rangle$$

$$M_a = \alpha \cdot M_0 = \alpha \cdot \frac{cK}{120} \quad \langle 1.7 \rangle$$

4. 適用範囲その他
評価報告書の通り。

以上